

谷島市長の辞職を求める決議

谷島市長が誕生してから、すでに約4年8か月が経過した。

この間われわれは、谷島市長が、どのような信念のもと、どのようなまちづくりのビジョンを描き、どのような施策を行って、石岡市をどこへ導こうとしているのか、それを一般質問や予算特別委員会、または複合文化施設建設特別委員会などの質疑を通じ、理解し協力しようとしてきた。

しかし、その都度われわれが感じてきたのは、谷島市長には、われわれが期待した信念も、描いているビジョンも、施策を選択し実行する指導力も、石岡市の未来を描く想像力も欠如しているのではないかという疑いであった。加えて、谷島市長のみならず、谷島市政を支える田所副市長及び執行部の、大局観、戦略性を欠いた行政運営も明らかになったが、これを補うように、令和4年、市長公室の行革推進課が経営戦略課に、経済部が産業戦略部に名称変更されたものの、以降も本市の行政運営には何の戦略性も見いだせなかったことは、まさに皮肉であると言わざるを得ない。

谷島市長の失政をあげつらうのではないが、いま申し述べたことの一部を示せば、1期目における公立病院の頓挫、旧法政グラウンドの利活用失敗、2期目に続く複合文化施設建設の紆余曲折と停滞、台湾台中市との交流の不手際、さらには将来を嘱望される若手有能職員の相次ぐ離職など、決して看過できない問題が挙げられる。特に、複合文化施設建設地にかかる昨今の迷走は、われわれが市長という職に期待する信念、まちづくりのビジョンなどを、谷島市長が決定的に欠いている事実を明らかにした。さらに、度重なる職員の不祥事に対する管理責任と事後対応における危機管理能力の欠如を厳しく糾さなければならない。

われわれは、石岡市及び石岡市民をこの停滞から救い出し、石岡市の未来を切り拓くためには、谷島市長がその職を退くことが最善の道であると信ずる。

よって、市長においては、その地位や名誉に拘泥することなく、石岡市と石岡市民の未来を第一に考え、自ら潔く辞職されるよう強く求める。

以上、決議する。